

九州支部 プロジェクトマネージャー 吉村 萬澄

### 【ポイント】～計画的にステップアップを図り、第3の事業の柱を構築～

自社で保有するアルミダイカストの設備と技術を強みに、中小機構の中小企業大学校セミナーや専門家継続派遣事業を活用しつつ、5年越しで北部九州の大手自動車部品メーカーから受注を獲得し、異業種に新規に参入できた事例である。

もともと大手照明ブランドメーカーのOEM受託メーカーとして、また独自の創造型開発商品も事業化しており、そのモノづくりには高い評価を得ていたものの、自動車部品を生産するには多くの解決すべき課題があった。経営者の熱意を基に、中小機構の専門家の指導を通じた取組みを計画的にステップアップすることで3つめの事業の柱を築いた。

### 企業概要

- ▶ 企業名：国分電機株式会社
- ▶ 業種：電気機械器具製造業
- ▶ 本社所在地：鹿児島県霧島市国分重久4601-1
- ▶ 資本金：90百万円
- ▶ 設立：昭和63年5月
- ▶ 売上高：2,850百万円(平成22年2月)
- ▶ 従業員数：126名



代表取締役 森山克己社長

国分電機(株)は、営業、設計から鋳造、加工、組立部門までを保有した一貫生産ラインを強みに大手照明ブランドの生産受託メーカーとして、また防犯灯やLED製品など自社独自商品の事業も抱え創立以来、着実な業歴を重ねてきた。

主事業である照明器具は、国内市場では需要が頭打ち傾向にあり、また顧客の海外展開の進展が想定されることから、平成17年に照明以外の異業種に参入を決心した。

当社は、照明器具の構成部品に使用され、九州には少ないアルミダイカストの生産能力を活かして、北部九州で生産が拡大する自動車の部品を新規参入のターゲットとした。

南九州は、自動車関連メーカーが多い北部九

州から離れており、自動車参入を望む企業は自治体が主催する自動車部品メーカーとのマッチングに頼る傾向がある。

社長は、自動車関連メーカーの技術者の方に工場を見学してもらい、意見交換などによる自動車への参入条件を積極的に把握することに努めた。その一貫として、平成18年秋に中小企業大学校(人吉校)の自動車参入セミナーに参加したのが、当機構との出会いである。実地指導も含んだセミナーを通じ、「自動車は、(本業の)電器製品とは違ったモノづくり」が必要であることを知った。そして専門家継続派遣事業の活用へと発展し、自動車産業に相応しいQCDの管理技術を学ぶ(1回目)とともに営業を含めた管理・監督者の人材育成(2回目)を図った。併行して進めていた顧客開拓が平成21年に実を結び、新製品を円滑に立ち上げ・供給するため3回目の専門家による指導を受け、量産立ち上がりで発生したトラブルを克服し、平成22年夏、新規業種への参入を果たすことができた。



アルミダイカスト部品

## 支援課題の設定とプロジェクトマネージャーの視点



吉村萬澄 プロジェクトマネージャー

北部九州には3つの自動車メーカーの生産工場が地場企業からの部品調達を進めているため、自動車部品への参入を期待する企業は多い。しかし、QCDに細かな管理とその継続を求められ、また管理基盤の整備に時間が掛かることなどから、断念する経営者も多い。

大手有名メーカーのOEM製品を設計から手がけており、モノづくりでは経済産業省の表彰を受けた企業である。が、自動車部品に参入するには、周到的な準備が必要である。

中小企業大学校のセミナーで自動車部品産業の概要の理解を皮切りに、専門性を深めるため専門家継続派遣事業の活用を勧めた。専門家継続派遣を3回に分け、自社のこれ迄の管理技術を棚卸しし、管理の熟成度に応じてステップアップを図れる支援計画とした。

## 支援内容と支援成果

専門家継続派遣の1回目では原価見積りやト

レーサビリティや自工程の品質保証などの知識の蓄積や業務体系の整備、2回目では自らの強みを顧客に提案するための「魅せるラインづくり」の実践を通じた人材育成の観点を重視した。1年後に受注が決まると営業・品質・技術・製造の担当者にプロジェクトを組んで頂き、3回目を実施し量産立ち上げ準備と早期の安定ラインへの移行を重点とした。専門家は中部支部で経験に富んだ自動車部品メーカー出身アドバイザーがセミナーから引き続き担当し、支援の一貫性を図った。

支援した内容は、3回目だけでも70項目以上となる。それぞれの項目を月2回のミーティングで何度もブラッシュアップした結果、円滑に顧客に製品を提供できた。支援内容やプロジェクトチーム編成などの取組内容は、同様の課題を持つ企業への支援のモデルケースとなる。

## 経営者のことば

OEM製品、自社製品に継ぐ第3の事業の柱として自動車部品への参入を決心した平成17年から長く掛かりましたが、有効な支援となりました。支援いただいた内容は、自動車の関連職場で拡大充実させるだけでなく、他の職場にも展開し、常に元気にモノづくりを創造してゆく企業であり続けたいと思っています。

【売上高の推移】

